

## 病害虫発生予報 第6号

(向こう1か月間の発生予報)

### I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量(平年比)	発生時期	備考
水 稲	穂いもち	全域	並	並	
	紋枯病	全域	やや多	並	
	白葉枯病	全域	並	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並	並	
	セジロウンカ	全域	並	並	
	カメムシ類(斑点米)	全域	多	並	
大 豆	子実害虫類	全域	多	並	
りんご	褐斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並~やや多	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	すす点病・すす斑病	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並~やや多	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
りんごコカクモンハマキ	全域	並	並		
な し	うどんこ病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	クワコナカイガラムシ	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並~やや多	並	
	シンクイムシ類	全域	並~やや多	並	
	りんごコカクモンハマキ	全域	並	並	

も も	せん孔細菌病	全域	並	並	
	コスカシバ	全域	並	並	
ぶどう	べと病	全域	並	並	
	黒とう病	全域	並	並	
かき	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	円星落葉病	全域	並	並	
	カキクダアザミウマ	全域	並	並	
	カキノヘタムシガ	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
	フジコナカイガラムシ	全域	並~やや多	並	
トマト	疫病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
きゅうり	斑点細菌病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並~やや少	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並~やや多	並	
果菜類(きゅうり、トマト等)	ウイルス性病害	全域	並~やや多	並	
	アザミウマ類	全域	並~やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並~やや多	並	
アブラナ科野菜	黒斑細菌病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並	並	
	黒腐病	全域	並	並	
	コナガ	全域	並~やや少	並	
はくさい	ピシウム腐敗病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
レタス	すそ枯病	全域	並~やや多	並	
	べと病・菌核病・灰色かび病	全域	やや少	並	
	斑点細菌病	全域	並	並	

	軟腐病・腐敗病	全域	並～やや少	並
アスパカス	茎枯病	全域	並～やや多	並
	斑点病	全域	並～やや少	並
ねぎ	黒斑病・葉枯病	全域	やや多～多	並
	べと病	全域	並	並
野菜・花き 共通	オオタバコガ	全域	並～やや多	並
	ヨトウガ類	全域	やや多～多	並
	ハモグリバエ類	全域	並～やや多	並
	アブラムシ類	全域	並～やや多	並
	アザミウマ類	全域	並～やや多	並
	ハダニ類	全域	並～やや多	並

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや常時発生ものを示す。  
 ※地域指定がある場合は、その地域以外は、発生量、発生時期とも「並」を示す。

## II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

### 1 向こう1か月の天候の見通し（気象庁 令和7年9月18日発表）

#### ○関東甲信地方【9月20日～10月19日】

高気圧に覆れやすいため、向こう1か月の気温は高い。平年と同様に曇りや雨の日が多くなる見込み。

#### ○関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の見通し

区 分	見通し	予想される出現確率（%）		
		低い（少ない）	平年並	高い（多い）
平均気温	高 い	10	10	80
降 水 量	平年並	30	30	40
日照時間	平年並	30	30	40

### 2 予報の根拠にかかる気象要因

（+）は発生を増加させる要因、（-）は発生を減少させる要因を示す。

## III 水 稻

### 1 穂いもち

（1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、発生地点率は全般に平年と比べやや高かった。
- ②9月上旬の巡回調査では、北信地域及び中信地域の被害率は、平年と比べ高かった。
- ③常習発生地等では、多発ほ場が確認されている。

（3）防除上の留意点

発生しているほ場からは、自家採種を行わない。

### 2 紋枯病

（1）予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、発病被害度は東信地域及び北信地域は平年と比べ高かった。
- ②常習発生地等では、上位葉鞘へ進展がみられている。

### 3 白葉枯病

（1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、発生は平年と同様にみられなかった。
- ②巡回調査では、台風等により浸冠水したほ場はみられなかった。

（3）防除上の留意点

- ①常習発生地では、発生に注意する。
- ②台風等の浸冠水が発生を助長する。

### 4 ツマグロヨコバイ

（1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、成虫の捕獲頭数はほぼ平年並であった。
- ②気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。

（3）防除上の留意点

収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

## 5 セジロウソカ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠  
9月上旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）では、捕獲頭数は平年と比べ少なかった。発生地点率は、平年並であった。
- (3) 防除上の留意点  
収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

## 6 斑点米カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：多い 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠  
①9月上旬のすくい取り調査では、捕獲頭数は全般に平年と比べ多かった。  
②気象要因（+）  
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
- (3) 防除上の留意点  
収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

## IV 大豆

### 1 子実害虫類（マメシンクイガ、シロイチモジマダラメイガ、カメムシ類）

- (1) 予報の内容 発生量：多い 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠  
①9月中旬の巡回調査では、食葉性チョウ目幼虫の食害及びカメムシ類の発生が平年と比べ多かった。  
②気象要因（+）  
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
- (3) 防除上の留意点  
①防除適期は子実肥大初期であるが、発生が多い場合は7～10日間隔で追加防除する。なお、9月の気温が高めで推移すると、収穫期間近まで被害が発生する可能性があるため、必要に応じて9月下旬頃まで防除を行う。  
②吸実性カメムシ類の生息密度は、畑の外縁部ほど高い傾向があるので、外縁部への散布は丁寧に行う。  
③マメシンクイガは移動性が低く、前年に発生が多かった連作畑では被害が発生しやすいので注意する。  
④収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

## V りんご

### 1 褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠  
①直近の巡回調査では、東信及び北信地域で平年並に発病葉がみられた。  
②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点  
①「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。  
②前年に発生が多かったほ場、現時点で発生がみられるほ場では、収穫期までの発生状況に留意するとともに、発病葉等は適切に処分する。

### 2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠  
直近の巡回調査ほ場では、みられなかったが、巡回調査以外のほ場で初夏に発生がみられ、伝染源量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点  
①秋季に発生がみられる場合があるので、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。  
②薬剤耐性菌のまん延防止のため、殺菌剤の選択においては農業農村支援センター、JAなどの指導を受ける。

### 3 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠  
①7月の巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域で平年並に発生がみられた。  
②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点  
「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

#### 4 腐らん病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査の折に、県下各地で春先から発生が多くみられた。
- ②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されることから、発生はやや多くなると推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①夏場は病斑の拡大が一時停止するが、今後の降雨により胞子が飛散し、翌年以降の発生につながるので、園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。
- ②病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。
- ③発生の多いほ場では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

#### 5 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回調査では、東信及び北信地域のは場で平年並に発生がみられた。
- ②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

#### 6 炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回調査では、東信、北信地域の一部のは場で平年並に発生がみられた。
- ②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。
- ②突発的な降雨が続くと予想される場合は、散布間隔を10日程度に縮める。
- ③気温が高く、降雨によって濡れ時間が長いと、二次感染が増加する。
- ④発病果は、第二次伝染源となるため、除去し土中に埋めるなど適正に処理する。

#### 7 すず点病・すず斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②降雨が多い場合は、9月下旬まで防除する。ただし、薬液の選択に当たっては、品種毎の収穫期と薬剤の使用時期に注意する。

#### 8 キンモンホソガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回調査では、県下各地で寄生葉(マイン)の発生量は平年並であった。
- ②須坂市(果樹試験場)のフェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺頭数はやや少ない。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

#### 9 スモモヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回では、シンクイムシ類による果実被害は観察されていない。
- ②須坂市(果樹試験場)のフェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺頭数は、平年並であるが、病害虫防除部や農業農村支援センターによるフェロモントラップ調査では前世代の誘殺が多い地点もあり、発生量は平年並～やや多いと推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

#### 10 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、県下各地でナミハダニ、リンゴハダニの寄生がみられ、8月は一部のは場で多発傾向であったが、9月上旬の調査では平年並の発生となっている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②殺ダニ剤の散布前に、徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布やSSの縦横走行散布等によって、樹幹内部まで薬液が十分かかるようにする。

## 11 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①須坂市（果樹試験場）では7月後半のわずかな誘殺を除き誘殺がなく、長野市のフェロモントラップではほとんど誘殺がない。
- ②向こう1か月の気象予報では、気温はやや高いと予想されており、発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②葉が果実に接していると、接触部の果面が食害されることがあるため、早めに摘葉を行う。

## VI なし

### 1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- 直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

### 2 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- 直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

### 3 クワコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- 直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

- (3) 防除上の留意点
- ①発生が目立つ園では、主枝等に誘引バンド（紙製の米袋や布等）を巻き、越冬虫が活動を始める前の冬季（12月から2月まで）のうちにバンドを取り外して、バンドとその下にいる越冬虫を処分する。
- ②「県防除基準」を参照し、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準等を遵守して防除する。

## 4 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシは平年並であったが、チャバネアオカメムシは平年と比べ多かった。
- ②気象要因（+）
- 向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ①本年は発生量が多いため、収穫前の園地では飛来状況をこまめに確認する。特に、山際で飛来が多い園地では、気温が高まると多くなる傾向がある。
- ②定期的に園内を観察し、カメムシ類を発見した場合はカメムシ類に登録のある薬剤を散布する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ③合成ピレスロイド剤は、「県防除基準」の指定地域以外では使用しない。

## 5 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①高森町（南信農業試験場）のナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多かった。
- ②気象要因（+）
- 向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ①多発園や産卵のピーク時は、間隔をあけすぎないように「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②今後、気温が高く推移した場合、晩生種で被害が多くなる傾向があるので、最終防除時期が早くなりすぎないように注意する。

## 6 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- 直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

## Ⅶ もも

### 1 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①晩生種の果実や枝葉への感染は見つけ次第、必ず取り除き、適切に処分等を行う。

②「県防除基準」を参照し、発生ほ場では収穫後の防除を必ず実施する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

③台風の襲来など強風と降雨により感染量が増えるので、気象情報にも注意する。

### 2 コスカシバ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった。

(3) 防除上の留意点

①成虫の発生盛期は、8月中旬～9月中旬である。

②発生園では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

## Ⅷ ぶどう

### 1 べと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査ほ場では、県下各地で平年並に発病がみられた。

②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、葉の保護のために収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

## 2 黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査ほ場では、発病がみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、茎葉の保護のために収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②発生が多かったほ場では、巻きひげ等が翌年への伝染源にもなるので、必ず適切に処理する。

## Ⅸ かき

### 1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査ほ場では、発病がみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

### 2 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査ほ場では、発病がみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②降雨前に重点的に防除する。

### 3 円星落葉病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査ほ場では、発病がみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②散布ムラがないように、丁寧に防除する。

#### 4 カキクダアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査ほ場では、発病がみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

#### 5 カキノヘタムシガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査ほ場では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

#### 6 ハマキムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査ほ場では、発病がみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

#### 7 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

## X 野菜

### 1 トマト疫病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①多湿条件で発生しやすいので、適正なかん水や換気等に努め、排水を良好にする。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

### 2 トマト灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって施設内の湿度低下に努める。

②開花後の花弁から発病しやすいので、咲き終わった花弁の除去に努める。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

④薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

### 3 トマト輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域の露地栽培で発生がみられたが、平年並の発生であった。

(3) 防除上の留意点

①露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。

②被害茎葉が次作の伝染源となるので、ほ場外で適切に処分する。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

### 4 キュウリ斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①発病後の防除は困難であるので、「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。

②被害の甚だしい葉及び果実は除去する。

## 5 キュウリベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、北信地域の施設栽培、露地栽培で発生がみられたが、平年並の発生であった。

(3) 防除上の留意点

①下葉で発病の著しいものは摘葉する。

②降雨や灌水により、地表面からの水のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。

③発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。

## 6 キュウリうどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや少ない** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、中信地域及び北信地域の施設栽培のほ場で発生がみられたが、発生量は平年と比べやや少なかった。

(3) 防除上の留意点

①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で防除する。その後は発生状況に応じて適宜に防除する。

②多発生してからでは防除困難となるので、発病初期からの防除に努める。

## 7 キュウリ炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、発生はみられず、発生量は平年と比べ少なかった。

②例年、露地栽培の生育後半での発生が多いことから、今後、発生の増加が推測される。

(3) 防除上の留意点

①病害が多発した葉は早めに除去する。

②窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

## 8 キュウリ褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、北信地域の露地栽培で発生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

①本病は、露地栽培後半の高温多雨条件で発生が多い。

②発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。

③ハウス栽培では高温多湿を防ぎ、多発葉は除去する。

④窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

## 9 果菜類（きゅうり、トマト等）のウイルス性病害

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマトの露地栽培でCMVの感染株が継続してみられている。

②5地点（小諸市、上田市、塩尻市宗賀、塩尻市洗馬、長野市）に設置したアブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップへの8月の誘殺頭数は、3地点（小諸市、塩尻市宗賀、長野市）で、平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

①発病株は、直ちに除去して処分する。

②感染植物を吸汁したアザミウマ類及びアブラムシ類の吸汁により、健全な植物に伝染する。（アザミウマ類及びアブラムシ類の防除については、次項10及び11の項を参照。）

③汁液伝染する恐れがあるので、畝ごとに使用するハサミを替えるなどして、汚染されたハサミにより、ほ場全体に拡がらないように注意する。

## 10 果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、いちご（施設栽培）、中信地域のきゅうり（露地栽培）で寄生がみられ、全般的に平年と比べ発生量が多かった。

②3地点（上田市、塩尻市、長野市）に設置した青色粘着トラップへの8月の誘殺頭数は、1地点（塩尻市）で平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットの設置等により、飛び込みを防ぐ。

## 11 果菜類（きゅうり、トマト等）のアブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、中信地域のきゅうり（施設栽培）で寄生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

②5地点（小諸市、上田市、塩尻市宗賀、塩尻市洗馬、長野市）に設置したアブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップへの8月の誘殺頭数は、3地点（小諸市、塩尻市宗賀、長野市）で平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②露地栽培では、高温となる夏は減少する傾向があるが、施設栽培では1年中発生する。
- ③施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどし、飛び込みを防ぐ。

## 12 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域のブロッコリーの一部のほ場で発生がみられたが、全般的に発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①降雨が多いと多発する。
- ②育苗時の発生に注意し、発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。
- ③発生ほ場の被害茎葉は、土壌中の病原菌密度が増加するのですき込まない。
- ④「県防除基準」を参照し、防除する。

## 13 アブラナ科野菜の軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、中信地域のキャベツ及びはくさいの一部のほ場で発生がみられたが、全般的に発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②高温多湿条件で多発する。

## 14 アブラナ科野菜の黒腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域のブロッコリーの一部のほ場で発生がみられたが、全般的に発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②過湿、過乾、高温期、肥料切れの場合に発生しやすい。
- ③雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすい。

## 15 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや少ない** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

6地点（小諸市、上田市、原村、塩尻市、朝日村、長野市）に設置したフェロモントラップへの8月の誘殺頭数は、朝日村を除く5地点で、平年と比べ少なかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

## 16 ハクサイピシウム腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①高温期は軟腐病を併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③降雨が多いと多発する。

## 17 ハクサイベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

②気象要因（－）

向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①本病に感受性の高い品種の作付けは避ける。
- ②定植直後から定期的に予防散布を実施する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。

## 18 レタスすそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②結球始期に重点的に防除する。

## 19 レタスベと病・菌核病・灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：**やや少ない** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

②いずれの病害も、低温で降雨が続く時に発生が多い。

③気象要因（－）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②いずれの病害も、結球始期に重点的に防除する。

## 20 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②降雨が多いと多発する。

## 21 レタス軟腐病・腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや少ない 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられず、発生量は平年と比べやや少なかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後すみやかに防除を行う。
- ②常発地・多発地では、排水対策を行う。
- ③高温多雨条件で多発する。

## 22 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、全調査ほ場で発生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①「雨除け」をすると、茎枯病の予防効果が高い。
- ②降雨時の泥はね等によって感染しやすいので、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。
- ③病茎は早期に刈り取り、ほ場外へ持ち出し、穴を掘って埋めるなどの適切に処分する。
- ④降雨が多いと多発する。

## 22 アスパラガス斑点病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや少ない 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられず、発生量は平年と比べ少なかった。

(3) 防除上の留意点

- ①通風をよくするために立茎数を制限し、徒長倒伏しないよう上部を刈取る。
- ②降雨が多いと多発する。
- ③定期的な防除を実施し、散布間隔が大きくあきすぎないようにする。また、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
- ④「県防除基準」を参照し、防除する。

## 23 ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報の内容 発生量：やや多い～多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、南信地域、中信地域で黒斑病の発生がみられ、発生量は平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①被害葉は、2次感染源となるのでは場内に放置しない。
- ②降雨が多いと多発する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。

## 24 ねぎのべと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①降雨が多いと多発するので、ほ場の排水対策を行う。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

## 25 オオタバコガ（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）で被害がみられたが、発生量は平年並であった。

②各地に設置されたフェロモントラップによる調査では、8月の誘殺頭数が多い地域（小諸市、佐久穂町、御代田町、茅野市、富士見町、阿南町、松本市、塩尻市、須坂市、中野市など）がある。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②結球野菜では、結球始期に重点的に防除する。
- ③薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

## 26 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多い～多い 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、寄生は確認されなかったが、各地に設置されたフェロモントラップへの8月～9月上旬の誘殺頭数は、ヨトウガの多い地域（塩尻市）、ハスモンヨトウの多い地域（上田市、塩尻市、須坂市）、シロイチモジヨトウの多い地域（塩尻市、長野市）がある。

### ②気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

- (3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

## 27 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、南信地域及び中信地域のねぎで寄生がみられ、寄生株率は平年と比べ高かった。

- (3) 防除上の留意点

- ①苗床での防除を徹底する。
- ②育苗施設では粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④収穫後は、残さの処分を徹底する。

## 28 アブラムシ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、中信地域のきゅうり（施設栽培）で寄生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

②5地点（小諸市、上田市、塩尻市宗賀、塩尻市洗馬、長野市）に設置したアブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップへの8月の誘殺頭数は、3地点（小諸市、塩尻市宗賀、長野市）で、平年と比べ多かった。

- (3) 防除上の留意点

早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

## 29 アザミウマ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のいちご（施設栽培）、アスパラガス（露地栽培）、南信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）、ねぎ、中信地域のきゅうり（施設栽培）、アスパラガス（露地栽培）、ねぎ、北信地域のきゅうり（露地栽培）、アスパラガス（雨よけ栽培、露地栽培）で寄生がみられ、発生量は全般的に平年と比べやや多かった。

②3地点（上田市、塩尻市、長野市）に設置した青色粘着トラップへの8月の誘殺頭数は、1地点（塩尻市）で平年と比べ多かった。

- (3) 防除上の留意点

①育苗期又は定植時の防除が有効である。

②早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

③アザミウマの種類によって、薬剤に対する感受性が異なるので、防除を実施後に効果を確認し、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

④ほ場周辺の雑草に寄生し、野菜畑に飛び込む場合があるので、雑草防除等のほ場管理を行う。

## 30 ハダニ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、南信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）、中信地域のアスパラガス（露地栽培）、北信地域のきゅうり（露地栽培）、アスパラガス（雨よけ栽培、露地栽培）で寄生がみられ、発生量は全般的に平年と比べ多かった。

②例年、盛夏期以降に多発する。

### ③気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

- (3) 防除上の留意点

①早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

②同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

③施設栽培等で、乾燥状態が続くと多発しやすい。